

自 己 評 価 書
(平成24年度)

平成25年3月

鳴門教育大学附属特別支援学校

I 学校の現況及び目的

1 現況

- (1) 学校名 鳴門教育大学附属特別支援学校
- (2) 所在地 徳島市上吉野町2丁目1番地
- (3) 学級等の構成
 - 小学部 3学級(複式)
 - 中学部 3学級
 - 高等部 3学級
- (4) 児童生徒数及び教員数(平成24年5月1日)
 - 小学部 18人, 中学部 18人, 高等部 24人
 - 児童生徒数 60人
 - 教員数 29人(正規教員)

2 目的

(1) 目的・使命

本校の目的は、附属特別支援学校校則第1条において「知的障害及び自閉症の児童生徒に対して、小学校、中学校及び高等学校に準ずる教育を施し、あわせて障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授ける」と定めるとともに、同条第2項では「幼稚園、小学校、中学校及び高等学校の要請に応じて、幼児、児童又は生徒の教育に関し必要な助言又は援助を行うよう努める」と定めている。

また、校則第1条には「鳴門教育大学(以下「本学」という。)における児童及び生徒の教育に関する研究に協力し、かつ、本学の計画に従い学生の教育実習等の実施に当たることを目的とする。」と定めており、具体的には教員養成大学の附属特別支援学校として、次のような使命をもった学校でもある。

- ①大学と一体となって、教育の理論及び実践に関する科学研究を行う研究学校としての使命
- ②地域の教育課題の解明、参観者への指導・助言、文部科学省・県教委・地教委等からの要請による教員派遣など、教育界の発展に寄与する使命
- ③鳴門教育大学の学部学生及び大学院生の教育実習等を行う使命
- ④附属学校としての実践的研究の成果を活かし、地域における特別支援教育のセンター的役

割を發揮する使命

(2) 教育目標

本校は、校則第1条に示されている目的の達成のため、学校として、また各学部としてそれぞれ次のような教育目標を掲げている。

- ①明るい性格と豊かな人間性を育てる。
- ②日常生活に必要な習慣や態度を養う。
- ③生活を高めるため、知識・技能・態度を育てる。
- ④強靱なからだと意志を養う。
- ⑤集団生活への適応能力を育てる。

(小学部)

- ①豊かな心、じょうぶな身体を育てる。
- ②日常の基本的な生活習慣を身につける。
- ③興味関心を広げ、自ら取り組む態度を育てる。
- ④人とかかわる基礎的な力を育て、集団での活動に参加できる態度を育てる。

(中学部)

- ①身体の健康及び思春期の不安定さに配慮しつつ、生徒自身が心理的に安定した状態で安全な生活を送る。
- ②自分や他者にとってよりよい結果を得るために、行動する。
- ③認知・学習、運動・体力のそれぞれの知識や技能の向上を図るとともに、場面や状況に合わせた態度の育成を図る。
- ④個々の「参加」の質を高めるために、学習で身につけた知識・技能・態度を実際の家庭生活・地域生活・労働生活に發揮する。

(高等部)

自立した社会生活に必要な知識や技能を習得し、家庭生活や職業生活の中での実践力を身につける。

- ①心理的な安定を図るとともに、働くための健康な身体と青年期の豊かな心情を育てる。
- ②主体的に働く意欲や態度、集中力を養う。
- ③将来の社会生活に必要な言語・数量に関する基礎的学力および生活技能を養う。
- ④人と関わる中で社会性を身につけ、自ら生

活を楽しむことができる力を養う。本校では、学校及び各学部の教育目標に基づき、それぞれ次のように「めざす子ども像」を明確に示している。

○明るく、仲よくできる子ども

○じょうぶで、元気な子ども

○よく働く子ども

○力いっぱいがんばる子ども

(小学部)

○心と身体の健康向上に取り組むことができる児童

○身の回りのことが、必要な支援を得てできる児童

○学習活動に興味を持ち、意欲的に取り組むことができる児童

○人とかかわりを大切に、集団活動に進んで参加することができる児童

(中学部)

○健康な身体と健全な心を持つ生徒

○周りの人に自分から意思を伝え、係わりあえる生徒

○学びや体験をとおして「分かる」「できる」「こうすればいい」ことを自分から見つけられる生徒

○自らの興味や関心、楽しみを広げ、様々な生活場面に参加できる生徒

(高等部)

○身体と心の健康に気をつけて、人や自然を愛することができる生徒

○進んで働こうとする意欲やチャレンジ精神を持つことができる生徒

○自分でできることは自分でして、できないところは支援を求めることができる生徒

○マナーやルールを守って積極的に社会参加をしようとする生徒

平成24年度重点課題

①研究機関と連携した教育研究により、教員の授業力向上を図る。

②保護者との連携強化を図る。

③危機管理対策の見直しを行う。

④特別支援教育のセンター的機能の強化を図る。

平成24年度学校評価シート

学部・部	小学部
重点課題	小学部における「わくわくする授業」の実践
重点目標	小学部の各クラスにおいて、研究に基づいて「わくわくする授業」を行う。

達成の 具体的な評価指標	①参観日毎に保護者にアンケートを取り、「わくわくする授業」が行えているかを聞き取る。 ②毎月、教員に「わくわくする授業」が行えているかを聞き取り自己評価を行う。 ③研究発表会の際に参加者からアンケートを取り、「わくわくする授業」が行えているかを聞き取る。
実施計画 (手だて・スケジュール等)	①各週に学部研究日を設定し定期的に学部での検討を進める。 ②年間2回の授業検討会を行う。 ③PRT※1に基づいた指導を各自の指導場面の中に取り入れる。 ※1 PRT・・・機軸行動発達支援法

実施状況	①隔週に学部研究日を設定することはできなかったが、年間2回行われた小学部授業研究会前には、小学部の職員全員で学部リハーサル等を行い、各自・各自立活動グループの授業内容及び研究内容について情報交換や検討をすることができた。 ②6月と11月に小学部の授業の内容についての授業検討会を実施することができた。本校の全職員に対して小学部の自立活動の授業についてどのような研究を進めているかについて周知することができた。 ③PRTの伝達研修を全6回実施することができた。それらの研修結果を各自が授業場面に取り入れることができた。			
評価指標の達成度 及び 成果	①参観日毎(6月12日, 9月10日, 11月13日, 12月9日, 1月25日, 2月22日)にアンケートを実施することができた。結果については別紙の通りである。 ②教員アンケートについては毎月実施することができなかった。 ③研究発表会(2月9日)の際に小学部分科会参加者に対してアンケートを実施することができた。			
総合評価 (○で囲む)	A	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	②の教員アンケートを毎月実施することができなかったため。①と③についてのアンケートについては実施することができた。			
次年度の課題	PRTに基づいた授業作りのノウハウを様々な授業の中で発揮していく。また、授業のアイデア等を増加させ、授業作りの力量を高める。			

平成24年度学校評価シート

学部・部	中学部			
重点課題	「わくわくする授業づくり」に向けた学部の指導体制整備（2年次）			
重点目標	①「わくわくする授業づくり」に資する指導力の要素を検討する。 ②「わくわくする授業づくり」に資する教員の指導力を向上させる。			
達成の具体的な評価指標	①平成24年度版「わくわくシート」が活用され、授業検討が行われる。 ②自立活動の時間における指導、各教科等（未定）において、2回の授業研究が行われる。 ③①、②に基づいて、「わくわくする授業づくり」の改善点（主に教員の指導力が向上した点）が明らかにされる。			
実施計画 (手だて・スケジュール等)	①平成24年度版「わくわくシート」や他の教員の助言に基づき、授業改善を行う。研究部が提案する事例レポートのプロトコルに沿って実施する。 ②平成20～23年度までの研究とのつながりを基盤とし、主に「教員の教授行動がどう変化したか」を明らかにする視点から、授業研究を行う。 ①の事例研究は、主に活動単位で検討を行うのに対し、②では授業単位で検討を行うこととする。 ③-1 研究紀要執筆のスケジュールに沿って、①、②の研究を合わせて、目的、方法、結果を要約し、考察を加える。 ③-2 研究発表会の協議内容、参加者や助言者の意見を元にさらに考察を加え、次年度に申し送る。			
実施状況	①及び②：第1期は、わくわくシートに基づく研究授業3、授業改善レポート6の改善を行った。第2期は授業研究2、事例研究1、ポスター6の改善を行った。 ③-1：中学部で設定したユニット※2とLearn unit ※3を往復しながら、好子、目標行動、教員の指導等を検討し授業改善を行うことにより、わくわくする授業づくりが実現できることが明らかになった。 ③-2：わくわくする授業づくりの方略を他の特別支援学校、特別支援学級や通常の学級で適用するネットワークの開発が課題として残された。 ※2ユニット・・・授業を組織化する単位（本校中学部が名付けたもの） ※3 Learn unit・・・学習場面における先行刺激(A)、正しい反応(B)、強化(C)の組み合わせのこと。			
評価指標の達成度及び成果	①及び②：中学部の教員全員が1期、2期で各1つ以上の授業改善を行い、主体的に指導力向上への取組に参加できたと評価する。 ③研究発表会の分科会参加者は40名を超えた。班研究で導き出したわくわくする授業づくりにおける指導の改善点を広く周知することができた。			
総合評価 (○で囲む)	A	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	①及び②：上記の達成度に記したように、中学部の教員全員参加の体制で研究発表会に取り組んだ。 ③分科会参加40名は、ここ10年で最も多い数字といえる。			
次年度の課題	・Learn unit 研究の継続、好子の査定と引継ぎをさらに進める。また個別の指導計画との関連から、生徒の目標行動の的確な設定ができる指導力を向上させる。 ・発達支援センターとの連携によりPRTの指導力をさらに向上させる。			

平成24年度学校評価シート

学部・部	高等部
重点課題	わくわくする授業づくり
重点目標	わくわくの「行動評価シート」に基づいた授業を実施していく中で、わくわくする授業づくりに資する教員の授業力を向上させる。

達成の 具体的な評価指標	<p>①前期と後期に予定する年2回の学部研究授業と個々の実践授業を通して「行動評価シート」の有効性を探り、修正版として「新行動評価シート」(仮名)を完成させる。</p> <p>②高等部教員全員が研究授業の授業の実施または授業改善レポートを作成する。</p>
実施計画 (手だて・スケジュール等)	<p>①②-1 研究部の計画に沿った授業研究会を、7月と10月の2回実施する。</p> <p>①②-2 11月には、「新行動評価シート」(仮名)の完成に向けた学部検討会をもち、実践に使われるシートの完成をめざす。</p> <p>①②-3 毎月2回の学部研究会において、各教員が実施している授業改善レポートについて検討会を開き授業改善を行う。</p> <p>①②-4 蓄積された改善レポートから、わくわくする授業づくりのポイントや授業改善のヒントを導き出す。</p>

実施状況	<p>①②-1 研究部の計画に沿って「自立活動」の授業研究会を実施した(7月, 10月:研究会の後, アンケートや出された意見を参考に改善に向けた議論と実践を行う。</p> <p>①②-2 研究部から提案された「わくわくする授業改善のための教員のチェックシート」を使って授業改善のレポートを作成した。</p> <p>①②-3 毎月の学部研究会において、各教員から出された授業改善のためのレポート報告と分析を行った。夏休み明けに「チェックシート」の施行例を持ち寄り、分析検討。10月以降は研究発表会に向けたケースを検討した。</p> <p>①②-4 報告されたレポートの結果を基に、チェックシートの項目の中で当てはまる頻度の多いものと少ないものに着目し、それぞれの内容について授業改善との関係を議論した。</p>			
評価指標の達成度 及び 成果	<p>①新しい「チェックシート」は、構成要素として「自主性」「達成感」「共同(協働)性・対人関係」の3点からなる。これは高等部が研究が始まった頃から重視していた内容が活かされる形になった。</p> <p>②学部の教員全員が、研究授業の授業者かレポート報告かのどちらかをにない、研究紀要の編集や研究発表会の内容の充実に貢献した。</p>			
総合評価 (○で囲む)	(A)	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	<p>①構成要素となる3点を重視した実践を積み重ねて、今年度の研究活動の中心となった新しい「チェックシート」の作成に貢献した。</p> <p>②学部全員がレポート報告に取り組み、具体例の蓄積に貢献した。</p>			
次年度の 課題	<p>・「わくわくする授業づくり」の方法の一つとして取り組んだ「チェックシート」を、授業や教育活動の中で、さらに使いやすいように工夫・改良すること。</p> <p>・授業実践の中から「チェックシート」とは違う「わくわく」へのアプローチについて検証すること。</p>			

平成24年度学校評価シート

学部・部	教務部
重点課題	「わくわく」する授業づくり～学習内容のチェック～
重点目標	毎月末の月曜日に、個別の指導計画の進捗状況確認や学習履歴欄の入力を全校統一して行うことで、教科担当者の点検と見直しをする。

達成の 具体的な評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ①授業担当者が前期、後期、年間の指導計画を作成する。 ②授業担当者が月ごとに実施指導内容を報告する。(個別の指導計画チェック日) ③半期ごとに教務部で点検を行い、進捗状況についてまとめる。 ④学年末に学習内容の履修の傾向を分析、報告し、次年度の目標設定を行う。
実施計画 (手だて・スケジュール等)	<p>個別の指導計画に学習履歴欄を設け、実施内容を記載する。 進捗状況の把握や実施報告を取り入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①前期、後期、年間の指導計画を作成する。 ②授業担当者が月ごとに実施指導内容を報告する。(個別の指導計画チェック日) ③10月と2月に教務部が点検を行う。 ④-1 2月に分析を行う。(学習内容の設定における過不足など) ④-2 3月に次年度の計画の枠組みを提案する。

実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ①児童生徒全員に個別の指導計画を作成した。 ②学部ごとに様式は異なるが、授業担当者が月ごとに実施指導内容を報告した。 ③各学部ごと進捗状況について点検を行った。 ④今後、学習内容の履修の傾向を分析・検討し、次年度の目標設定を行う。 			
評価指標の達成度 及び 成果	個別の指導計画チェック日を設けることで、それぞれの教員が個別の指導計画を意識して授業を進めることができた。学習内容の設定における過不足などがないかどうかあわせて確認することができた。			
総合評価 (○で囲む)	(A)	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	授業担当者が月ごとに実施指導内容を報告し、学部ごとに担当者(教務部員)が進捗状況を確認することができた。			
次年度の 課題	2年間実施して、「個別の指導計画を意識した指導」をそれぞれの教員が意識して行うことができていると感じた。2年間の予定だったので、次年度は「個別の指導計画チェック日」を実施をする予定はないが、教務部として学部内で個別の指導計画を意識した指導を行うよう推進していきたい。			

平成24年度学校評価シート

学部・部	教務部
重点課題	「わくわく」する授業づくり～授業についての共通理解～
重点目標	月1回（第3水曜日）、「教科等の話し合い」の時間を設定し、学部の中で各教科等についての学習内容の共通理解を図る。

達成の 具体的な評価指標	<p>①月1回（第3水曜日）、「教科等の話し合い」の時間を設定する。</p> <p>②「教科等の話し合い」を通して、各教科の授業でどのような学習が行われているかについてのデータを収集する。 （例）国語でどのような教材を用いているか、題材は何かなど、具体的に事例をピックアップする。</p> <p>③各教科の学習内容について具体的な事例を20例以上挙げる。</p>
実施計画 (手だて・スケジュール等)	<p>①月1回（第3水曜日）、「教科等の話し合い」の時間を設定し、各教科等について学部の中で共通理解を図る。</p> <p>②「教科等の話し合い」を通して、各教科の学習内容のデータを収集する。 （どの教科を話し合うかについては教務が決定し、同じ月に同じ教科を各学部ごとに話し合うようにする。）</p> <p>③ KJ法を参照し、各教科の学習内容について具体的な事例をたくさん挙げ、それを分類する。 長期休業中（夏季休業、秋季休業、冬季休業）に、各学部で話し合った内容を教務部員が持ち寄り、まとめを行う。次年度の教育課程編成の基礎資料として活用する。</p>

実施状況	<p>①各学部ごとに実施をした。（計2～4回）他の行事と重なることがあり、計画通りに実施できない月があった。</p> <p>②自立活動の内容（6区分26項目）について、具体的にどういった内容を指導したらよいか話し合うことができた。回数が不十分だったため、全ての項目について話し合うことができなかった。</p> <p>③話し合った項目については、具体的な事例を20例以上あげることができた。</p>			
評価指標の達成度 及び 成果	<p>学部間で実施回数にばらつきがあり、計画通りに実施できたとは言いきれない。しかし、学習内容のデータを収集したり、学習指導要領を読み合わせたりすることで、自立活動の内容や項目について再確認する良い機会であった。</p>			
総合評価 (○で囲む)	A	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	<p>当初の計画では1～2ヶ月に1回実施する予定であったが、行事や他の会議と重なることがあり十分に回数を実施することができなかった。</p>			
次年度の 課題	<p>次年度以降「教科等の話し合い」を実施するかどうかについて、教務部内で再検討する必要がある。時期や内容を含め、次年度以降の研究のテーマ等に沿った形で実施するようにすれば、無理なく話し合いができるように感じている。</p>			

平成24年度学校評価シート

学部・部	教務部
重点課題	「わくわく」する授業づくり～教育実習を通じた学生の学びの向上～ 教員養成における連携は大学が本校に養成する重点施策の一つである。大学附属校として、実地教育は教務部にとって重要な業務である。大学側の意向を踏まえた教育実習のあり方について検討をしていく必要がある。教員の指導力向上とともに、学生の学びの向上についても具体的に把握し評価していく必要がある。
重点目標	教育実習生の「自己評価シート」の作成、運用を通して、学生の学びが向上したかどうかを抽出する。

達成の 具体的な評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ①教育実習生用の「自己評価シート」を作成する。（「自己評価シート」はアンケート形式とし、理解が深まるにつれて高得点となるようにする。） ②教育実習が始まる前に学生に「自己評価シート」を記入してもらおう。 ③教育実習の最終日に学生に「自己評価シート」を記入してもらおう。 ④「自己評価シート」の合計点が実習前と実習後を比較して、実習後に向上した学生が80%以上で達成とする。
実施計画 (手だて・スケジュール等)	<ul style="list-style-type: none"> ①教育実習生用の「自己評価シート」を作成する。 ②教育実習が始まる前に学生に「自己評価シート」を記入してもらい、実習前の自己評価を行う。 ③教育実習の最終日に学生に「自己評価シート」を記入してもらい、実習後の自己評価を行う。 ④実習前と実習後の「自己評価シート」を比較し、学生の学びや特別支援教育に対する専門性が向上したかどうかを検討する。

実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ①教務部内で検討して昨年まで教育実習生に行っていたアンケートを改善して、「自己評価シート」を作成した。 ②③教育実習事前指導と教育実習が終了した時点で実習生に「自己評価シート」を記入してもらった。 ④「自己評価シート」を集計し、教務部内で検討した。 			
評価指標の達成度 及び 成果	昨年度まで使用していたアンケートの内容を見直したことで、実習生にとって項目が理解しやすくなった。4段階で評価してもらうことで、実習前後で何を学び、何が課題として残ったのかを明確にすることができた。			
総合評価 (○で囲む)	(A)	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	「自己評価シート」を作成し、教育実習の前後に実習生に記入してもらったことで、実習生が何を学び、どのようなことを実習を通して得たのかを把握することができた。			
次年度の 課題	次年度も「自己評価シート」の記入は継続して行っていきたい。実習生が記入しやすいよう、内容を検討して改善を行っていきたい。			

平成24年度学校評価シート

学部・部	研究部
重点課題	研究機関と連携した教育研究により、教員の授業力向上を図る。「わくわくする授業づくり」
重点目標	児童生徒の実態の評価や授業の計画および評価を行うために基軸行動支援(Koegel,2006)の考え方を参考に作成した「わくわく」に関する行動評価シートを使って授業改善を行い、シートによる検討の前後における授業計画の変化、児童生徒の学習目標の達成状況の変化を明らかにする。また、どのような教員間での検討や助言が授業改善に有効に機能したかを検討過程の経済的妥当性を含めて検討し、教員組織がシートを用いて授業改善を行うためのマニュアルを作成する。

達成の 具体的な評価指標	①教員全員が授業改善レポートを記述したか。 ②学部研究会で授業改善レポートの検討を行い、「わくわくする授業づくり」のためにどのような授業改善方法が有効であったかをまとめたか。 ③研究授業および授業研究会を6回行ったか。 ④授業改善のマニュアル、事例とその分析および考察を掲載した研究紀要を作成したか。 ⑤研究発表会を実施し、全校および各学部の研究内容の報告を行ったか。
実施計画 (手だて・スケジュール等)	5～7月： 各学部教員が自立活動の時間のいくつかの学習活動のうちの1つを研究対象として取り上げ、その授業改善の過程を記述する。それらを学部ごとに集積し、授業計画の変化とそれに伴う児童生徒の学習状況の変化、授業改善に及ぼしたシートおよび他の教員の助言の効果、授業改善にかかる労力等の視点で分析する。さらに、全体研究会を通して各学部の分析結果の総合的考察を行い、マニュアルの素案を作成する。 9～11月： 各学部教員がマニュアルの素案を用いて、自立活動の時間および他の教科等における自立活動の指導において授業改善と結果の記述を行う。

実施状況	別紙「研究紀要 42 わくわくする授業づくり—目的を持ち、主体的に取り組む、かかわり合う授業システムをめざして—」参照			
評価指標の達成度 及び 成果	<ul style="list-style-type: none"> ・教員全員が授業改善レポートを記述した。 ・学部研究会で授業改善レポートの検討を行い、「わくわくする授業づくり」のためにどのような授業改善方法が有効であったかをまとめた。 ・研究授業および授業研究会を6回行った。 ・授業改善システム、事例とその分析および考察を掲載した研究紀要を作成した。 ・研究発表会を実施し、全校および各学部の研究内容の報告を行った。 			
総合評価 (○で囲む)	A	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	設定した評価指標をすべて達成した。			
次年度の 課題	別紙「研究紀要 42 わくわくする授業づくり—目的を持ち、主体的に取り組む、かかわり合う授業システムをめざして—」の「総合考察 II 今後の課題」参照			

平成24年度学校評価シート

学部・部	支援・進路部
重点課題	わくわくする授業作り
重点目標	「わくわく」の要素を取り入れた学校行事計画を起案する

達成の 具体的な評価指標	<p>①各行事（2大行事）の目的に「わくわく」の要素を含んだ具体的な文言を組み込むことができる。</p> <p>②全教員に周知し、学部内において内容の検討と実施を行う。</p>
実施計画 (手だて・スケジュール等)	<p>4月 運動会計画 11月 学校祭</p> <p>①支援・進路部内で運動会における目的を検討する。 その際、特別活動の目的および本校独自の「わくわく」を盛り込む。</p> <p>②実施計画書、および職員会にて全教員に周知を行う。</p>

実施状況	<p>4月運動会 11月学校</p> <p>①部内で目的の検討を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「わくわく」の要素を含んだ文言を組み込んだ目的を検討した。 ・前年度までの実績や検討事項を素に検討を行った。 ・県内支援学校2校から情報収集を行った。 <p>②実施計画書作成、職員会で周知・検討を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部での内容の検討をすすめた。
------	--

評価指標の達成度 及び 成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「わくわく」要素を組み込んだ目的を立案した。 ・実施計画を立案し、周知を行った。 ・以上の実施計画に基づき、運動会（5月20日）学校祭（12月9日）を実施した。
----------------------	---

総合評価 (○で囲む)	A	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下

評価根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果（職員・保護者）により判断できる。 ・支援進路部内での検討結果による。
------	--

次年度の 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・早い時期での計画と立案。 ・職員会等での周知と検討の徹底。 ・行事に関する評価項目の設定。 ・円滑な保護者との連絡調整。
------------	--

平成24年度学校評価シート

学部・部	地域支援部
重点課題	わくわくする授業づくり～校内リソースと地域支援部情報の校内への発信～
重点目標	校内からは授業や支援に関するアイデア，校外からは教育相談活動や研修会で得た情報を教員に紹介し，共有する。

達成の 具体的な評価指標	【情報の収集と紹介方法】 校内の授業や支援に関してのアイデア（自立活動を中心に）を各学部から収集する。また，校外では教育相談活動や各種研修会参加を通じて情報を収集する。そして，2ヶ月に1回の割合で紹介する。 【評価方法】 情報の有益感をマグネットを貼ることで示してもらおう。2ヶ月ごとにマグネットの個数を集計する。
実施計画 (手だて・スケジュール等)	①地域支援部員がインタビュー記録や写真で情報を収集する。 <校内>各学部の自立活動の取り組み，授業や支援のアイデアなど <校外>コーディネーター研修，巡回相談員研修などで得た情報，教育相談活動で得た情報，関係書籍情報など ②本校教職員の大多数が目にする場所に掲示する。 職員室後方のホワイトボードの活用。2ヶ月に1回程度で更新する。 ③評価を確認する。 評価の具体的な指標として，「いいね」マグネットを使う。有益で実践に活かせる情報であると判断した教員にマグネットを貼ってもらおう。

実施状況	校内の情報について，発達支援センターの紹介（5月），小学部の自立活動（7月），夏季公開研修の実施報告（9月），中学部の自立活動（12月）進路情報（3月）の順に職員室後方のホワイトボードに掲示した。見た人からの評価は，「いいね」マグネットを使用した。			
評価指標の達成度 及び 成果	校内の情報については，2，3ヶ月に1回のペースで紹介できた。校外支援の報告や研修会資料等，校内の教員に有益な情報の提供が不十分であった。評価については担当者が集計中である。			
総合評価 (○で囲む)	A	Ⓑ	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	2，3ヶ月に1回，ホワイトボードにプレゼンテーション資料を掲示し，マグネットの数をもとに，掲示した資料の有益感を調べることができた。			
次年度の 課題	全ての教員が目にする位置にあるホワイトボードを校内リソース掲示版として使うことは，情報を周知することに有用であると考えられる。 今後は，校内の教員にアンケートを実施し，地域支援部から提供して欲しい情報を調べ，アンケート結果をもとに次年度の校内リソース掲示版の運用について検討する必要がある。また，校外での支援活動について認知度を上げていくために掲示版を活用することも考えられる。			

平成24年度学校評価シート

学部・部	小学部
重点課題	保護者との連携の強化
重点目標	小学部教育課程，教育内容に関しての情報公開を行い保護者との連携を図る。 小学部における研究のあらましについて情報提供を行う。

達成の 具体的な評価指標	①学部懇談会を4回以上実施する。 ②学部通信を年間20号以上発行する。 ③学校評価の保護者アンケート結果がBとなる。
実施計画 (手だて・スケジュール等)	①小学部の教育課程，教育内容に関しての情報提供の場としての学部懇談会を年間4回以上実施する。 ②研究のあらましについて，学部懇談会でスライドを使用して進捗状況を伝える。 ③学部通信を月2回程度発行し，小学部での教育活動について定期的に知らせる。

実施状況	①学部懇談会を4月20日，6月12日，11月13日，(3月初旬に実施予定)の合計4回実施することができた。 ②6月12日，11月13日の学部懇談の際に，学部研究会の際に使用したスライドを保護者に提示した。また，遊びの指導・自立活動の授業の様子についての動画を閲覧して頂いた。 ③4月より2週間に1回発行することができた。年度末までに第25号までが発行される予定。
評価指標の達成度 及び 成果	①～③についての評価指標を達成することができた。4回の学部懇談，年間25回の学部通信の発行を通じて，小学部の学習活動及び研究活動を保護者に伝えることができた。また，学部懇談の際には授業の様子を動画で公開することにより様々な授業での子どもたちの姿を伝えることができた。

総合評価 (○で囲む)	A	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下

評価根拠	評価指標①～③を達成したため。A評価とした。
------	------------------------

次年度の 課題	小学部における授業内容及び研究内容について継続的に情報発信をしていく。また小学部の現状についても適宜情報発信を行い，学部として実施可能な行事や学習活動等についても理解を得られるよう発信していく。
------------	---

平成24年度学校評価シート

学部・部	中学部
重点課題	保護者との連携強化
重点目標	「わくわくする授業づくり」を軸に、保護者に対して、中学部の教科課程、教科外課程に関する情報公開をすすめ、連携・協働関係を深める。

達成の 具体的な評価指標	①中学部の指導や教育的支援に関して、保護者に伝えたり質疑応答したりする趣旨で、学部懇談会を年3回以上設定する。 ②保護者の学校評価において、学部の項目がB評価以上になる。
実施計画 (手だて・スケジュール等)	①-1 中学部の教育課程，教育内容，進路学習の成果と課題をテーマとして年3回の学部懇談を持つ。時期は，別途計画する。 ①-2 「わくわくする授業づくり」で，生徒の行動，教員の指導力がどう変化したかを具体的な事例を元に保護者に知らせる。昨年度の反省点を考慮し，見た目の派手さでなく，ねらった行動が生起し，教員が的確に評価を返しているかという点に焦点を当てて，共通理解を図る。 ②指導・支援の結果について評価をもらう。運動会，学校祭，就業体験等の各時期において，指導・支援の趣旨説明を徹底する。保護者による評価は，学校評価で一括して実施する。

実施状況	①-1 中学部の教育について、進路の状況について、わくわくする授業づくりについて、計3回の学部懇談を実施した。 ①-2 研究発表会で公開予定であった発表をもとにスライドを作成し，説明をした。ユニットや Learn unit について平易な言葉に置き換えて知らせた。 ②学校評価アンケートでは，18名中17名より回答を得た。
------	---

評価指標の達成度 及び成果	①学部懇談会は年3回設定できた。 ②学校評価アンケートの結果，「わかりやすい指導」や「個に応じた指導」については，概ね「3. ややあてはまる」以上の評価を得た。「わくわく」に関する項目では，1～2名の保護者から「2. あまりあてはまらない」との評価があった。
------------------	--

総合評価 (○で囲む)	A	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下

評価根拠	保護者アンケートの結果により，わくわくをはじめ，学校の活動についての広報が不十分と考え，B評定とした。
------	---

次年度の 課題	①-1 進路状況の共通理解については，年1～2回の学部懇談では不十分と考えられるのでさらに連携の方法を開発したい。 ①-2 中学部の教育課程，教育内容についての共通理解は，次年度の研究テーマと関連させ，研究と広報が連動するよう効率的に行いたい。 ②「わくわくする授業づくり」や進路学習など，学校のテーマとなる教育活動を広報する機会を増やし，参加型の学部保護者会が持てるよう工夫をしたい。
------------	---

平成24年度学校評価シート

学部・部	高等部
重点課題	保護者との連携強化を図る
重点目標	保護者参観日や学部行事等を利用し、「学部懇談会」を実施する中で、高等部の教育全般及び進路指導・就業体験における諸問題の解決を図りながら互いの連携・協働関係を深める。

達成の 具体的な評価指標	<p>①学部懇談会を年4回以上設定し、学部の教育及び学校教育、学校行事等の説明及び質疑応答をする中で、保護者と学部間の連携・協働関係を深める。また、保護者間の共通理解を深める。</p> <p>年度末における保護者の学校評価の中で、学部に関する評価が3以上になる。</p>
実施計画 (手だて・スケジュール等)	<p>①-1 7月、10月、1月、3月において学部懇談会を設定し、高等部の教育課程、わくわくする授業の成果と課題、進路指導と就業体験、将来の生活、クラス運営、学校行事のあり方などについて、説明と質疑応答をする中で、保護者の心情やニーズの理解に努める</p> <p>①-2 就業体験や学部行事などの後、それから年度末には保護者アンケートを実施し、本音の意見やニーズを調査・検討し、次の学部懇談会での議題の一つにして、課題を解決したり共通理解をしたりする。2月には年間総括アンケートを実施し、来年度に引き継ぐ課題を検討する。</p>

実施状況	<p>①-1 7月と10月に学部懇談を設定し、前期の高等部教育活動を振り返りながら、授業改善の状況や、2回の就業体験から見てきた生徒の課題や進路指導について説明した。</p> <p>①-2 就業体験後に個人懇談を、また、学部行事後に保護者アンケートを実施した。</p>			
評価指標の達成度 及び 成果	<p>①-1 12月以降病休の学部主事に代行をたてて、保護者との連携・協力につとめ研究発表会や地域懇談会などを実施したが、1月、3月の学部懇談会は実施できなかった。</p> <p>①-2 運動会や学校祭など学校行事、また研究発表会などの研究活動に保護者の理解と協力を得ることができた。</p>			
総合評価 (○で囲む)	A	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	<p>①-1 各行事のアンケートでは、高等部の取り組みや活動内容が支持を受けた。</p> <p>運動会や学校祭の表現では、生徒と一緒に体を動かす教員の姿勢が評価された。なお、2回は学部懇談会が未実施だった。</p> <p>①-2 年度末における保護者の学校評価の中で、学部に関する評価として「 」を受けた。</p>			
次年度の 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度2回しかできなかった学部懇談の年4回の実施。学部懇談のたびに出された要望や意見を次回に活かしながら、内容を深めていくための工夫。 ・家庭での様子や子育てのうえでの悩みに耳を傾ける姿勢を通じて保護者の信頼を得て、学校での教育活動を家庭生活と結びつけていく取組。 ・生徒を中心にした学校と家庭の連携のなかで、進路に向けての展望を語り合い、課題を共有していける関係づくり。 			

平成 2 4 年度学校評価シート

学部・部	管理職員
重点課題	保護者との連携強化
重点目標	本年度から活動を開始した6つの活動部について、活動が活性化するよう保護者との連携を深める。

達成の 具体的な評価指標	①各活動部が年間2回以上の具体的な活動を実施する。 ②各活動部が年間2回以上の部会を実施する。
実施計画 (手だて・スケジュール等)	①②-1 各部の活動に関して、計画運営の支援を行う。 ①②-2 各部の活動に関して、連絡・相談を密に行う。 ①各部の活動に関して、必要に応じて活動に参加する。 各部の活動に関して、本年度の反省に基づいて来年度の活動計画を作成できるように支援する。

実施状況	<p>計画どおり実施した。それぞれの活動部の活動について計画運営の支援他、できる限り管理職員が活動に参加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化・家庭教育部 「給食試食会」の実施 「保護者研修会」の実施 ・広報部 保護者だよりの発行 ・体育部 救命救急研修会 運動会保護者種目の運営補助 ・進路部 進路研修会の実施 施設見学の実施 ・交通安全部 児童生徒の安全確保について依頼 学校行事の際の交通案内 ・環境部 学校内の美化奉仕活動等 			
評価指標の達成度 及び 成果	<p>①各活動部が年間2回以上の具体的な活動を実施した。 ②各活動部が年間2回以上の部会を実施した。</p>			
総合評価 (○で囲む)	A	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート結果から(Q17)「保護者のニーズに沿った研修会や施設見学ができていますか」 平均 ・各活動部の活動実績(年間2回以上の活動・部会) 			
次年度の 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度の活動を踏まえて、活動がより活性化するように支援する。 ・保護者の皆様の活動部選択と活動の発展継続性を兼ね備えたシステムづくり。 			

平成24年度学校評価シート

学部・部	支援・進路部
重点課題	危機管理対策の見直し
重点目標	近年の大震災の教訓を活かした最新の安全教育計画を作成する。

達成の 具体的な評価指標	①最新の防災情報に関する情報を収集し、本校の実態に即した安全教育に関する年間計画を作成する。 ②必要な訓練や研修を実施する。
実施計画 (手だて・スケジュール等)	①-1 国や県、周辺諸学校、地域の防災情報を収集する。 ①-2 本校の実態に即した『防災マニュアル』を作成する。 ②安全教育に関する年間計画に基づき訓練等を実施する。

実施状況	①-1 文部科学省、徳島県、他県附属特別支援学校から防災に関する情報収集を行った。 ①-2 総務部と『安全管理計画』の作成について協議した。 ①-3 『大地震発生の防災マニュアル』を作成した。 ①-4 2012年度年間計画を立案、実施した。 ②訓練を実施した。			
評価指標の達成度 及び 成果	①関係機関の防災情報に関する情報を収集し、本校の実態に即した『安全管理計画』を作成した。『大地震発生の防災マニュアル』を作成した。 ②年間計画にのっとり訓練を実施した。			
総合評価 (○で囲む)	A	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	・支援進路部内での検討結果より ・『安全管理計画』の作成を総務課に委任した。			
次年度の 課題	・『安全管理計画』『大地震発生の防災マニュアル』の見直しと更新。 ・大地震発生時を想定した、大規模な避難訓練の計画と実施。			

平成24年度学校評価シート

学部・部	総務部
重点課題	危機管理対策の見直し
重点目標	東日本大震災の視点から、本校の危機管理対策の見直しを図る。

達成の 具体的な評価指標	①平成24年度の「安全管理計画」を作成する。 ②防災備蓄計画の見直しを図り、「安全管理計画」の中に位置づける。
実施計画 (手だて・スケジュール等)	①4月から5月にかけて、従来の安全管理計画の見直すべき点について検討を行う。 ②6月に、防災備蓄計画を見直し、平成24年度の「安全管理計画」と「本校の消防計画」を完成させる。

実施状況	①5月に安全管理計画を見直し、検討した。 ②平成24年度「安全管理計画」と「消防計画」を作成し、提出した。 防災備蓄については、2月に新しく防災備蓄品（2日分）を購入し、新館3階倉庫に保管済み。 現在の防災備蓄品については、4月以降、随時、消耗予定。
評価指標の達成度 及び 成果	・①②についてはすでに実施済み（達成済み）である。 ・また、非常時における飲料水の確保及び発電機の保有もできた。 ※新館ランチルームに自動販売機を設置。 非常時の飲料水及び発電機を設置した。

総合評価 (○で囲む)	Ⓐ	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下

評価根拠	・達成の具体的な評価指標①②について、実施済み
------	-------------------------

次年度の 課題	・次年度も、より現実的で児童生徒の実態に応じた危機管理対策を計画し、実施していく。 ・今年度までの防災備蓄品を計画通り、消耗していく。
------------	--

平成24年度学校評価シート

学部・部	地域支援部
重点課題	特別支援教育のセンター的機能の強化を図る
重点目標	特別支援学校のセンター的機能を発揮していく上で、地域の関係機関から求められている分野や支援内容を調査し、今後の研修計画や地域支援部の活動内容の方向性を見いだす。

達成の 具体的な評価指標	<p>【アンケート調査】夏季公開研修の参加者から特別支援学校のセンター的機能に関するニーズをアンケートにより調査する。</p> <p>【聞き取り調査】地域の保育園、幼稚園、小学校、中学校など（20件程度）から特別支援学校のセンター的機能に関するニーズを聞き取り、調査する。</p>
実施計画 (手だて・スケジュール等)	<p>①夏季公開研修開催時にアンケートを実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「特別支援学校のセンター的機能として求めるものは何か」について問う。(1) アンケート項目の選定 6月 <li style="padding-left: 20px;">(2) アンケートの実施 7～8月 <li style="padding-left: 20px;">(3) アンケートの集計 9～10月 <li style="padding-left: 20px;">(4) アンケート結果からの考察 11～12月 <p>②教育相談・研修会講師などで校外に出向いた際に「特別支援学校のセンター的機能」として求めるものは何かについて聞き取りをし、文章で記録したものをまとめる。</p>

実施状況	計画の①②について計画通りに実施した。
評価指標の達成度 及び 成果	夏季公開研修では、のべ127名の参加者があった。4回の夏季公開研修全てで、「来年度希望する研修内容」と「附属特別支援学校にセンター的機能として求めること」のアンケートを実施した。また、外部支援の際にアンケートの実施と聞き取りができた。

総合評価 (○で囲む)	Ⓐ	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下

評価根拠	アンケート結果と聞き取り資料をもとに考察ができた。
------	---------------------------

次年度の 課題	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;"> <p style="text-align: center;">来年度希望する研修内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 授業・指導法について ■ 教材・教具について ■ 支援体制作りについて ■ 進路支援について ■ 支援計画の作成と運用 ■ 障害特性について ■ 指導計画の作成と運用 ■ キャリア教育について </div> <div style="width: 45%;"> <p style="text-align: center;">センター的機能として期待すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 研修会の開催 ■ 教育相談 ■ 講師派遣 ■ 教材・教具貸し出し ■ 施設の提供 ■ その他 </div> </div>	<p>アンケート結果は、左に示すとおりである。希望する研修内容は、「授業・指導法について」「教材・教具について」が多かった。センター的機能として期待することは、「研修会の開催」が多く、次いで「教育相談」「講師派遣」が多かった。</p> <p>この結果と本校が提供できるリソースを照らし合わせ、次年度の夏季公開研修の内容を検討していく。また、今後、教育相談や研修会講師をする際には、ニーズを踏まえた上で内容を考える必要がある。</p>
------------	---	--

平成24年度学校評価シート

学部・部	発達支援センター
重点課題	特別支援教育のセンター的機能の強化を図る
重点目標	<p>①鳴門教育大学附属特別支援学校が中心となり、鳴門教育大学と協力し、他の本学附属学校及び関係諸機関と連携して「特別な教育的支援を必要とする幼児・児童生徒のための支援推進プログラム」を開発する。その成果物を、附属幼・小・中学校の教職員に提供することにより、附属学校園全体において特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒に対する展望と専門性を持った個別の支援や指導の効果を高める。</p> <p>②「発達の気になる就学前の幼児への支援プログラム」を開発することにより、現在必要性がクローズアップされている発達の困難や遅れのある幼児の早期発見・適時介入の一部に関わることで、地域への支援システムの効果的な一方法を提案する。</p>

達成の具体的な評価指標	<p>① 附属学校園における特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒の特性について教員の理解と指導力向上のためのニーズ把握、およびプログラム開発ができたか？</p> <p>② 連携対象地域の対象となる幼児とその保護者、保育担当者それぞれのニーズに応じた支援プログラムの開発と実施ができたか？</p>																																																				
実施計画 (手だて・スケジュール等)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">月</th> <th style="width: 30%;">推進委員会</th> <th style="width: 35%;">プロジェクト①</th> <th style="width: 30%;">プロジェクト②</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4</td> <td></td> <td>計画立案、文献調査</td> <td>計画立案</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>推進協力者等へのプロジェクト内容説明</td> <td>調査用紙の作成</td> <td>指導却修（慶応大学）</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>第1回推進委員会（各プロジェクト計画案の検討）</td> <td>予備調査、データ処理様式の策定</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>随時指導助言</td> <td>調査配布</td> <td>対象児の選定</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td></td> <td>調査回収</td> <td>対象児顔合わせ、諸検査、セッション計画書作成</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td></td> <td>データ処理</td> <td>セッション開始</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> <td>附属学校園コーディネーター連絡会における報告</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td></td> <td>幼小中一貫プログラムの検討</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td></td> <td></td> <td>次年度対象児の選定</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>第2回推進委員会（プロジェクト実施状況の確認）</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td>中間報告書作成、幼小中一貫プログラムの実施</td> <td>中間報告書作成、次年度療育担当者の検討</td> </tr> </tbody> </table>	月	推進委員会	プロジェクト①	プロジェクト②	4		計画立案、文献調査	計画立案	5	推進協力者等へのプロジェクト内容説明	調査用紙の作成	指導却修（慶応大学）	6	第1回推進委員会（各プロジェクト計画案の検討）	予備調査、データ処理様式の策定		7	随時指導助言	調査配布	対象児の選定	8		調査回収	対象児顔合わせ、諸検査、セッション計画書作成	9		データ処理	セッション開始	10		附属学校園コーディネーター連絡会における報告		11		幼小中一貫プログラムの検討		12			次年度対象児の選定	1				2	第2回推進委員会（プロジェクト実施状況の確認）			3		中間報告書作成、幼小中一貫プログラムの実施	中間報告書作成、次年度療育担当者の検討
月	推進委員会	プロジェクト①	プロジェクト②																																																		
4		計画立案、文献調査	計画立案																																																		
5	推進協力者等へのプロジェクト内容説明	調査用紙の作成	指導却修（慶応大学）																																																		
6	第1回推進委員会（各プロジェクト計画案の検討）	予備調査、データ処理様式の策定																																																			
7	随時指導助言	調査配布	対象児の選定																																																		
8		調査回収	対象児顔合わせ、諸検査、セッション計画書作成																																																		
9		データ処理	セッション開始																																																		
10		附属学校園コーディネーター連絡会における報告																																																			
11		幼小中一貫プログラムの検討																																																			
12			次年度対象児の選定																																																		
1																																																					
2	第2回推進委員会（プロジェクト実施状況の確認）																																																				
3		中間報告書作成、幼小中一貫プログラムの実施	中間報告書作成、次年度療育担当者の検討																																																		

実施状況	別紙「平成24年度 鳴門教育大学特別経費プロジェクト（中間報告書）」参照
評価指標の達成度及び成果	<p>① 保育所、幼稚園、小学校、中学校における特別支援教育、保育に関する調査、附属学校園コーディネーター連絡会における調査結果報告と意見聴取、本校近隣の公立中学校区連携協議会における調査結果報告と意見聴取を実施した。その結果、附属学校園ではコーディネーター連絡会のような組織を通じて、随時的なニーズに応じることのできる相談体制を作ること、また、近隣の保育所、幼稚園、小学校、中学校については、特別支援教育についての研修を推進する必要があることがわかった。</p> <p>② 発達の気になる就学前の幼児への支援プログラム（すぎのこプログラム）の開発及び発達の困難や遅れのある幼児に対するプログラムの実践を実施した。本年度の取組では、すぎのこプログラムと保護者や教員向けの研修プログラムを作成し、実践することができた。また、地域の関係諸機関に対しては、すぎのこプログラムの理論と実践に関する情報提供・実技研修を行った。</p>

総合評価 (○で囲む)	A	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	多少の実施時期の遅れ等はあるものの、ほぼ「H24 発達支援センター活動計画」に沿った活動ができたため。			
次年度の課題	<p>①附属学校園ではコーディネーター連絡会のような組織を通じて、随時的なニーズに応じることのできる相談体制を作ること、また、近隣の保育所、幼稚園、小学校、中学校については、特別支援教育についての研修を推進する。</p> <p>②今回は「すぎのこプログラム」として幼児の教育セッションをはじめ、保護者研修プログラム、地域における関係諸機関及び教員への情報提供と研修等を実施することができたが、それらの効果検証の仕組みは十分とはいえない。特に、幼児の教育セッションについては開始期と終了期の評価だけでなく、セッションの実施中の評価をもとに介入方法や標的行動を見直すといった仕組みを開発する必要があるだろう。保護者や教員、関係機関職員等の研修については、学習目標をどの程度達成したかの評価に加えて、教えたことがどのように実際の場面で役立ったかについても検討を行う必要がある。さらに、これらの検討を踏まえて「すぎのこプログラム」自体を改善していくPDCAサイクルを整えることも課題である。</p> <p>また、現状では「すぎのこプログラム」が地域における発達の困難や遅れのある幼児を支援するシステムとして「自立的に機能する」には至っていない。「すぎのこプログラム」の指導者育成や運用方法などのマニュアルの整備を進め、本校だけでなく他の様々な機関等において「すぎのこプログラム」の実施が可能になるような改善を行っていくことも課題である。</p> <p>教員研修については、今年度は鳴門教育大学附属特別支援学校の教員だけの実施にとどまった。今後は、実際に対象となる幼児が在籍するような保育所や幼稚園の保育士及び教員や、特別支援教育に対してセンター的機能を発揮する役割を持つ特別支援学校等の教員に向けた研修プログラムを開発するとともに、研修の実施体制を整える必要がある。</p>			